

1 スターチス・シヌアータ栽培管理法比較試験

背景と目的

スターチス・シヌアータは仏花として需要が安定しており、市内の花き品目の中で販売額が常に上位の主要な品目です。近年、盛夏期に高温傾向が強くなり、株が疲れることにより秋期の品質が低下する傾向が見られるため、昨年度試験ではお盆の需要が終わり次第株を休ませるために採花前の抽台を刈り取る処理を行った結果、品質向上効果が見られました。しかし、彼岸需要期には採花が間に合わなかったことから、今年度は処理時期を早めることにより彼岸需要期に採花できるか検討しました。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会花卉部会

耕種概要

作型 5月植え無加温8～10月切り（ビニールハウス栽培）

定植日 5月15日（ミスティックブルーハートのみ5月17日） 収穫終 11月1日

供試品種数 4品種（品種名、販売元は下表を参照）

試験区の設定

- ①慣行区 : 地域慣行の栽培管理を行い、初夏から収穫終わりまで採花調査を休みなく行う。
- ②8月5日区 : 8月5日に採花前の抽台を全て刈りとり（以下、「刈りとり処理」とする）、株を休ませる。刈りとり処理後に立ち上がった抽台が開花し次第、採花調査を再開。
- ③8月10日区 : 8月10日に刈りとり処理を行う。その他は8月5日区と同様。

試験結果

（1）刈りとり処理を行った試験区の採花再開時期

8月5日区では品種による差が大きく、オリゾンバイオレットと紫龍が彼岸需要期に間に合いました。一方、8月10日区は紫龍が2日早かったものの大きな差はつきませんでした。また、採花始めは彼岸需要期の最中となり、採花のピークは彼岸需要期が終わった後になりました。

表 刈りとり処理を行った区の二番花の採花始

	ミスティックブルーハート (福花園種苗)	オリゾンバイオレット (住化農業資材)	オリゾンピンク (住化農業資材)	紫龍 (ホクレン)
8月5日区	9月12日	9月7日	9月14日	9月7日
8月10日区	9月14日	9月14日	9月14日	9月12日

(2) 刈りとり処理を行った結果 (9月中旬以降で慣行区との比較)

本試験では2反復で試験を行いました。刈りとり処理を行った試験区の二番花の切花長は反復間で極端な差が見られるなど、品質面の検討は難しい状況でした。

ア 採花総本数、規格内本数

採花総本数は、紫龍以外で刈りとり処理を行った区の方が慣行区と同等以上となる傾向が見られました。規格内本数は傾向がよく分かりませんでした。

イ 切花長

ハウス内の天井カーテンの影で日陰がちだった反復では切花長が慣行区より長くなりましたが、日当たりが良かった反復では逆に慣行区より短くなりました。

ウ 開花分枝数

オリゾンピンクと紫龍は刈りとり処理を行った方が慣行区を上回りました。一方、その他の品種は傾向がよく分かりませんでした。

(3) 慣行栽培と刈りとり処理日別の時期別採花本数について

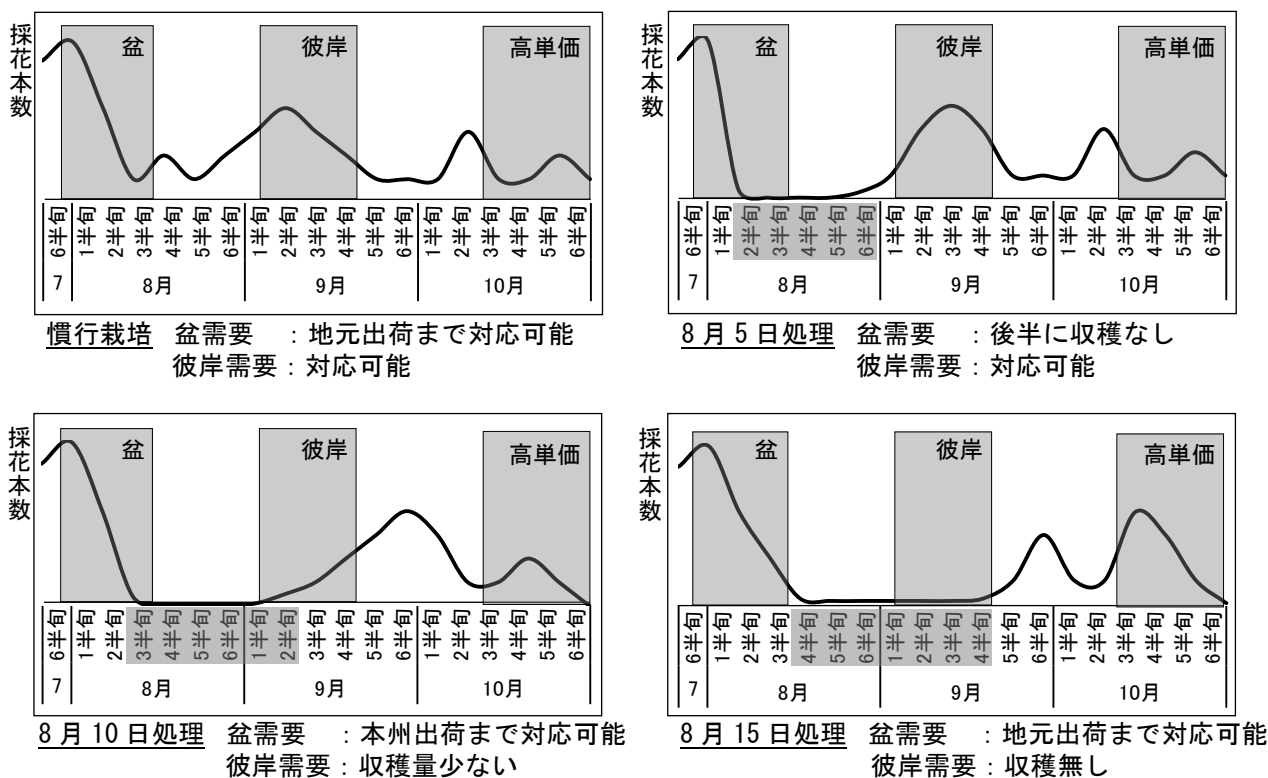


図 各試験区の半月別採花本数のイメージ図 (8月15日処理は昨年度試験結果より)

- ・グラフ上の網掛けは盆および彼岸需要期等により、一般的に高単価が期待できる時期を表す。
- ・半月(横軸)の網掛けは処理区における無収穫時期を表す(他品目の収穫等の作業時間に充てられます)。

まとめ

8月5日に刈りとり処理をした場合は採花が彼岸需要期に間に合いましたが、8月10日処理では採花のピークが需要期後になりました。また、刈りとり処理後の二番花は日射環境により品質(特に切花長)の向上と低下という真逆の影響が見られたことから、刈りとり処理後の環境を整えることが重要であると考えられました。刈りとり処理に関してはメリット・デメリットや栽培管理法など、この紙面だけでは伝えることが難しいので、ご興味がありましたら担当までお電話等でお問い合わせください。